





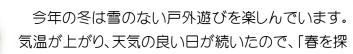
R6.2.20 上鄉保育園



み~つけた!

何かあるかな・・・?

霜は抱うすぐ・・・



そう!」と子どもたちは張りきって外へと向かいました。フェンス側を歩いたり、木の近くを観察したりと子どもたちは何かないかと探していました。

春にちなみ、小さな花を見つけた子やフキノトウを見つけた子もいましたが、中には面白い形の石や「これ、クレヨンだよ」と書くことができる石を見つけた子もいました。

農村公園の斜面を喜び、降りたり登ったりを繰り返し楽しむ姿も 見られます。また、折れた松ぼっくりの木を東屋のテーブルに乗せ、 松ぼっくりを枝で割ろうとしたり、水の溜まっている所を見つけ、枝 でかき混ぜて遊んだり・・・と子どもたちは遊び自体も見つけているこ とに感心です。自然の物だけを使って遊び出す力がついているんですね。





枝を使い、地面をゴソゴソしていました。 何をしているのかと様子を見ていると 「緑の取ってるの」 「だって、これ毒だから」 と言って、出始めた草をある程度取り終 わると「フ~」とホッとしたようにひと息 ついていました。





園庭からスコップを持ってきました。 「なんかへどみたいなの、いるんだよ」 と言って、地面を掘り始めました。 へどみたいなの・・・は、木の根っこでした。動くこともないのですぐに止め、 「次、あっちだ!」 とその場からいなくなりました。

「カタツムリの背中のグルグルあった!」 と見せてれた子がいました。 保「ホントだ。身体はどこにいったんだろう?」

「風に飛ばされたんじゃない。あ、 わかった!ナメクジに変身したのかも・・・」





雪はなくても冬の遊びも楽しんでいます!